

ほっぺん

⑨0 とんかつ



薩摩郷句

兼題『顔』

どげな顔会つ みるごちやい声ん美人

(唱) 用事も無業ゆ ひつ買た 爺

西ノ園ひらり

我が顔は細い醜青年を蹴つた娘

(唱) 好青年が好つ 二世の爲も

諸木小春

顔色で今日もピンち来た姑ん機嫌

(唱) 此ん頃ら嫁も 見極めが上手

植村昭子

給料日前機嫌悪い顔を女房はしつ

(唱) 俺が小使けも 削つちよいくせ

上村牛歩

木戸口で顔が土産ん孫を待つ

(唱) 風邪をひつがち 周囲が騒動しつ

北村虎王

大崎短歌会

兼題
『東日本大震災
二年目によせて』

故郷に帰れぬ人の日 日想う未だに減
らぬ強き放射能

長重悦子

果つるまで避難呼びかけ 職責を遂げ
にし人の 無念や如何に

坂元つる子

味噌汁に大根なますに三陸のわかめ
たつぷり 復興祈りつつ

徳園芳江

言葉には現わし得ないこの気持早き
復興ただ祈るのみ

宮原のり

東北の冷たく厚き雪の壁早く解けて
と祈る日続く

児玉チツ

大崎俳句会

夢さめて耳に微かな霜の音

折田スズ

九十五才杖ともなりて野に遊ぶ

宮下のし

春寒し小石如きにつまづきて

益倉睦美

窓あけて立春の朝風雨なり

坂元つる子

せせらぎの川藻一筋春つらら

宮脇洋子

夫退院新米研ぐや二人分

内村美恵子

今月の表紙

予測不能な桜の開花。今年の桜は、入学式を待ち切れず、まちを桃色に染めました。

入学式の桜は、新入生の門出を祝うかのように桃色の花が新緑の葉桜に変わり、生命の息吹に満ち溢れていました。

新入生のみなさんが毎年、花を咲かせる桜のように力強く成長することを願っています。



この歌は昭和35年(1960年)に石本美由起氏、上原げんと氏が、大崎町に立ち寄られた際に大崎海岸の風景をみて贈られた歌です。

その歌の一節に『おしゃれなまちさ』の歌詞があることから、今月号より大崎町をイメージする代名詞として『おしゃれなまち』を『広報おおさき』で使用していきます。



【正面玄関から町長室へ向かう階段に掲示】

人権啓発シリーズ HIV感染者、 ハンセン病患者等の人権

施策の方向性

HIV感染者、ハンセン病患者等が自立した生活を送ることができるよう、講演会の開催など普及・啓発を推進します。

青少年をエイズから守るためにも、性教育を含めた正しい知識の啓発活動や、保健所などで実施されているエイズ検査相談などについての周知に努めます。